

# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国城④ 築城

慶長6(1601)年、岩国城の縄張<sup>※1</sup>が決まると、最初に政治の中心地も兼ねる御土居<sup>おどい</sup>(藩主の居館)の工事が着手され、横山(城山)の麓に「上の御土居<sup>かみ</sup>(吉川広家の母の居館)」と「下の御土居<sup>しも</sup>(広家の居館)」が築かれました。続いて山上の城郭の工事が計画され、石垣に使う石材の切出しや運搬用の道作りが行われた後、慶長8年から工事が始められました。しかしその頃、江戸幕府より江戸城などの工事の手伝いが命じられたため、工事は予定通りには進みませんでした。また、広家自身も岩国を離れることが多くありましたが、岩国へ指示を送り、工事の進捗状況に気を配りました。そして慶長13年、城郭は完成し、森脇飛騨守<sup>もりわきひだのかみ</sup>らに城番<sup>※2</sup>が命じられました。

と、三層の上に物見を置く構造であったとされています。北の丸には東矢倉、北矢倉を備え、二の丸には大手門や尾首の矢倉がありました。城郭の搦手<sup>おくれ</sup>(裏側にあたる水の手郭)には、大釣井<sup>おほつるい</sup>、小釣井<sup>こつるい</sup>などの水場があり、竹谷矢倉<sup>たけたに</sup>と後矢倉<sup>うしろ</sup>でこれを守っていました。

このように、要所には矢倉が設けられ、その中心部は総石垣で構成されていました。また、出入り口となる虎口<sup>こぐち</sup>には、直線的な平虎口<sup>ひら</sup>ではなく、防衛に適した舁形虎口<sup>かきがた</sup>が多く採用されていました。これらは近世城郭の縄張構造といえます。その一方で、これらの郭群を取り囲むように塹堀<sup>たてほり</sup>がめぐらされており、本丸と北の丸の間には、幅約19・6m、深さ約10m(現在は7・4m)、長さ58・2mの空堀<sup>からほり</sup>が掘られています。

また、郭の外側には土塁も築かれており、これらは中世城郭の縄張構造といえます。このように、岩国城は近世城郭と中世城郭の縄張構造が混在していますが、いずれも築城に際し、防衛を重視していたことを示しています。



◀『御城山平図』

※1 なわばり。建物などの配置  
※2 領主に代わり、城郭を守備する役

城郭の詳細な配置や虎口などについては、次回紹介します。

### いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

## 岩国市 人口・世帯

人口 143,927 人

男性 68,159 人 女性 75,768 人

世帯 66,919 世帯

※外国人人口を含む (平成25年6月1日現在)

交通事故発生件数 5月分事故件数 51件(252件) 死者数 2人(3人) 傷者数 71人(305人)

※高速道路発生分を除く

※( )内は平成25年累計

### 広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎③1234

### 目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎②95016 FAX②13337